

## 第3回南極観測50周年記念事業委員会議事録

開催日時：平成18年2月10日（金）15：00～17：30

開催場所：国立極地研究所6階講堂

参加者：約40名

議事：

### 1. 実行委員長挨拶

国分 征実行委員長が開会の挨拶を行い、司会を進行した。

引き続き、村山雅美事業委員会委員長が欠席のため、平山善吉氏（委員長代理）から「50周年はいよいよ10ヶ月を切り、秒読みに入った。実行委員会が組織され、具体的に企画を練っている。日本の南極観測を総ざらいする意味でも、いろいろな記念事業を考えている。本日はいくつかの事業計画が示されるので、その承認をいただきたい。とくに予算計画は重要であり、募金についてもご検討をお願いしたい。」と挨拶があった。

### 2. 国立極地研究所所長挨拶および同50周年事業委員長の挨拶

福地光男50周年事業委員長より「OB会、文部科学省、極地研と各々の事業が動いており、お互いに連携してやってきた。来週の13日（月）には初めての三者の協議会が開催される予定である。」と挨拶があった。

国分実行委員長より13日の会合はOB会からは国分、渡辺、平山の3名が参加する予定であることが報告された。

藤井理行所長は所用があり、本委員会の後半になって、出席し、「この50周年を記念して、写真や記念になる物など、歴史を大事にするように、OB会と携えて努力していきたい。」と挨拶があった。

### 3. 実行委員会報告

#### 3-1. 部会報告

##### 1) 講演会部会（渡辺）

渡辺興亜講演会部会担当より、『南極観測50周年記念事業計画』に基づき、講演会等の計画について報告があった。一番重要な点は、講演会を通じて、これまでの南極観測を振り返り、広く国民にその歴史的意義を伝えることである。記念事業には三つの柱があり、その一つはお祭りとしての南極観測50周年祝賀会、他の二つは記念出版事業と記念講演会である。講演会は東京だけでなく全国に散らばる南極OBによる各地での講演会の開催を企画した。50周年記念事業の成功には南極OBの縦のつながりが必要であり、そのために50周年事業委員会の設立に先立って、南極OB会を立ち上げた。設立を機会に地方支部の設置をお願いしてきた。現在、全国で15支部が設立された。本日検討する事業計画募金の3分の1は地方での講演会に使っていききたい。北海道、富山、九州等では具体的に講演会が決まっている。3、4ヶ月以内に全国規模の講演会の具体的な案を立ち上げていく計画である。

東京での記念講演会では11月8日の「宗谷」での出港記念祝典に併せて「船の科学館」で一般公開講演会「宗谷時代の南極観測」を実施する。12月に「南極観測50周年記念講演会」を開催し、また南極OB会がこれまで主催してきた「南極教室」の記念講演会を極地研とタイアップして開催する。

## 2) 祝典部会(三田、福谷)

三田安則宗谷祝典担当より、「宗谷」記念式典および講演会の説明があった。出港記念式典を当時の出港時刻の11時に開催する。「宗谷」を満艦飾してもらい、出港点鐘を打つなどの企画を考えている。その後の記念講演会は今のところ羊蹄丸のアドミラルホールで計画している。その後、バスで赤坂プリンスホテルに向かい、その途中、晴海の「しらせ」を見学し、会場ホテルに向かう。会場や輸送バスの手配などのために参加人員の早期の把握が必要と考えている。宗谷関係者の参加は80名を見込んでいる。当時、宗谷では麻雀、花札は許可されており、その時使った花札が出てきており、この機会に披露する計画である。また、女性講師宝井梅星『講談・南極第一次観測隊物語』などの企画も考えている。

## 3) 出版部会(平山、小野)

平山出版部会担当より出版事業に基づき、説明があった。出版は3冊考えている。「南極観測：100人の証言(仮題)」、「南極、にんげんの50年史(仮題)」、「南極観測の50年(写真集)」である。とくに「南極観測：100人の証言」については1次隊から最近の隊に至る50年間の歴史的出来事、越冬生活、観測、設営、自然現象等をテーマとして、各隊少なくとも一人以上の幅広い隊員OBに執筆をお願いすることになっている。

## 4) 記念品部会(佐野)

佐野雅史記念品部会担当より50周年記念品について説明があった。記念祝賀会参会者や基金賛助者への配布品として、50周年記念パンフレット、記念モノクロ写真集、記念地図、記念カレンダーを考えている。その他、記念ネクタイピン、ネクタイなどを記念品として販売する計画もある。北海道支部の協力で商標をすでにとっている記念菓子「雪まりも」を祝賀会参加者に配布する計画も検討している。

## 5) 総務部会(事務局、渡辺、福谷)

福谷博総務部会財務担当より、予算案について説明があった。また、本委員会で本案が承認されたら、実行委員会は事業計画をスタートさせることになる。実行委員会の事務局を水道橋近くに設けた。南極OB会の事務局を兼ね、ホームページのアドレスは <http://www.jare.org/> である。記念事業委員会組織は企画委員会、募金委員会、実行委員会から構成されている。実行委員会の中の総務部会に事務局が設けられた。企画委員会、実行委員会はボランティアワークであり、どなたでも参加を歓迎しますので、

ぜひ協力していただきたい。

#### 6) 広報部会 (深瀬)

深瀬和己広報部会担当より、説明があった。先日、「船の科学館」でプレスリリースを行った。最初の予定は15社の新聞社、テレビ会社等が予定されていたが、当日は他に事件があり、毎日、共同、時事、京都、北海道の5社の参加であった。パンフレット等も用意し、これまでの南極観測の現状などをスライドで15分ぐらい報告し、南極OB会の50周年記念事業計画を説明した。5人の方から事前取材が自宅(深瀬)に電話であった。本来の記者発表というものは、決定した事項を発表することであるが、今回はあくまでも案として発表したことに対してだったので、影響は大きかったと思われる。ニュースになるためには小まめに、南極記者クラブに通うことが必要である。

#### 7) 募金事業

平山募金委員長から募金計画及び別添資料募金趣意書に基づいて説明があった。目標は2,500万円である。

寄付金については免税措置の対象とすることを、現在、日本極地研究振興会と協議中である。寄付に当たっては免税証明が必要であるかどうかを明記して、申し込みをするという内容になっている。

事業計画実行委員会の報告の後、企画委員会の川口貞雄委員長に議長をバトンタッチした。川口氏により、これまでの実行委員会の提案して来た事項について、賛同を求められ、拍手で賛同が得られた。これにより、今後、事業計画については実行委員会を中心に推進していくことになった。

その他、OB会の神沼克伊氏より、募金活動に関して、日本極地研究振興会に寄付するという形をとることで、会社から免税証明の依頼があった場合、会社は免税措置を受けることができるかどうかについて質問があった。これに対して、日本極地研究振興会理事の吉田栄夫氏より寄付を受けるところは南極観測50周年記念事業委員会であるが、免税措置を適用する場合は、一旦振興会に入金して、振興会から事業委員会に出金することになる。このことに関しては、日本極地研究振興会理事会で審議して、正式に決めることになるが、免税措置の適用は可能であると考えている旨の説明があった。また、平沢威男氏より免税措置については重要であり、再度確認してほしいと発言があった。

最後に、国分委員長が司会を進行し、本委員会は閉会となった。その後、極地研6階ロビーにおいて、懇親会が開催された。